

「指導例」を有効に活用した単元構成のアイデア

学年・単元名

第4学年 「ごんぎつね」(光村図書)

単元構想

指導例「てぶくろを買いに」を取り入れて



第1次

本時

指導例「てぶくろを買いに」

1

「物語の設定」や登場人物の状況を読み取り、作品のよさや特徴を見付けることができる。

第2次

1

「物語を読んで、考えたことを話し合う」という学習に意欲をもつことができる。

2

物語の中に出てくる語句について調べ、言葉の意味を理解することができる。

3

場面の設定や物語の展開をとらえることができる。

第3次

1

読み深めていきたい学習課題を考えることができる。

2

学習課題について自分の考えをもち、友達と交流することができる。

3

〈学習課題 例〉

4

・「ごん」と「兵十」の関係について(「ごん」と「兵十」の距離感、「ごん」の「兵十」に対する思い等)

5

・「ごん」と「兵十」の境遇について

6

・「ごん」の思いと「兵十」の認識の違いについて

7

・語り手の視点の転換について

7

自分の考えの根拠となる部分を読み、必要に応じて引用しながらまとめることができる。

8

物語を読んで感じたことや考えたことを交流し、友達との感じ方の違いに気付くことができる。

第4次

1

紹介したい作品について、「ごんぎつね」と比較しながらよさや特徴を見付けることができる。

2

作品のよさや特徴について自分の考えをまとめ「作品交流会」で紹介し合うことができる。

押さえない指導のポイント

- 作品のよさや特徴を考えて交流し合う学習を行うことを知らせ、目的をもって読ませる。
- 「登場人物」「季節」「天気」「場所」等、「物語の設定」として描かれていることを読み取らせる。
- 「登場人物の状況」について描かれている部分に着目させ、どのような状況かを考えさせる。
- 作品についての話し合いの中に間違った解釈や考えがあること指摘することにより、作品を評価して読む力を身に付けさせる。
- 作品のよさや特徴について、自分の思いや考えをまとめさせる。